

聖書考古学資料館主催・2014 秋のセミナー

「古代バビロニアの生活と文化」

第1回目のセミナーでは、楔形文字がどのように使用され始めたのか、シュメール語がどのような過程を経て解読されたのかを見ながら、シュメール語の特徴を具体的に学びたいと思います。

シュメール語は、それが日常生活の話し言葉として使用されなくなってからも、書記にとっては必修の言語でした。書記となる子供たちは、シュメール語をどのように学習したのでしょうか。第2回目のセミナーでは、子供たちが練習用に用いた粘土板から当時の初等教育のカリキュラムをたどってみたいと思います。また、女性の読み書きについても触れる予定です。

シュメール語の文学テキストは、実は、そういった子供たちの練習用粘土板文書から再構成されている訳ですが、第3回目のセミナーでは、そこから、古代オリエントの人々が死後の世界をどのように見ていたのかを読み解いていきたいと思います。

講師：唐橋文 先生（中央大学教授）

筑波大学第二学群比較文化学類卒業。米国シカゴ大学大学院中近東言語・文化学科にてシュメール語の動詞の分析を題材に博士号を取得。専攻はアッシリア学。

日時：2014年

第1回 9月29日（月）午後6時半～8時

「楔形文字とシュメール語」

第2回 10月27日（月）午後6時半～8時

「古代バビロニアの教育」

第3回 11月17日（月）午後6時半～8時

「古代バビロニアの死生観」

場所：お茶の水クリスチャンセンター

(OCC) 416号室



▲ウル第三王朝時代の焼き煉瓦の一部に記されたシュメール語碑文。(TMBA)



▲文字学習用粘土板。(レプリカ。TMBA)

受講料：1回につき（資料代含む）

一般 1,500 円、 会員 1,000 円、 学生割引 800 円

一般社団法人 聖書考古学資料館 (TMBA)

〒101-0062 千代田区神田駿河台2の1 OCCビル403号

Tel.03-3296-8889 <http://www.tmbsa-museum.jp>

